

まちが学び舎 Letter

“ふるさとから豊かな生き方を学ぶ”「ふるさと・キャリア教育プロジェクト」

2021. 12. 14

担当：学びの場クリエイター 西村



12月12日（日）

拳ノ川小学校「楮のむしはぎ」

黒潮町・佐賀北部にある「若山楮和紙工房」でのむしはぎの日。（例年のイベントはコロナ禍で自粛）先生は、紙漉き職人の中嶋久実子さん。
・拳ノ川小学校のみんなが育てた楮は、他と混ざらないように特別に印つき。「この楮が、来年の黒潮町の6年生の卒業証書になります」と中嶋さん。責任重大です！



・そして今年は、昨年までとは異なるはぎ方ということで、最初はじっくりと説明を見て、聞いて、やり方を学びました。何度も同じ作業をくり返して、たくさんの材料をあつかうので、最初にきちんとやり方を知ることは、とても大切ですね。

・やり方が分かり、一本目、二本目を少ししんちょうにはぐと…あとはみんながどんどん作業を進め、みるみる楮の山が小さくなっていきました。もくもくと集中して作業を進めたり、大学生や友達と競争したり、先生や保護者の方と一緒に楽しんだり。

・1つ1つの作業を地道に積み重ねないと、楮は紙の原料になりません。この次の作業「へぐり」のためにも、一本一本確実に、きちんとはぐることが必要です。そしてどこも機械化することはできず、人の手作業が全て。拳ノ川小学校のみんなが、子どもも大人も全員で来て参加してくれて、『若山楮』の人たちも、とても喜んでいました。みんなの手の数だけ、一生懸命な取り組みのぶんだけ、大きな大きな作業量になりました。拳ノ川小のみんなの力は、この『若山楮』にとって欠かせない貴重な力ですね☆



『新しいはぎ方が難しかったけど、中嶋さんに教えてもらいできてよかったです。ありがとうございました。』



この作品の前に、この通りの風景がありました



みんなが来る前に、2時間半むした櫓です



『作業を楽しみにしていました。よろしくお願いします』



新しいはぎ方を、じっと見つめるみんな



高知大学地域協働学部の大学生と一緒に



もくもくと集中・・・



友達や大学生と、競争！



はぎ終わった、おがらの片づけも

まちが学び舎 Letter

“ふるさとから豊かな生き方を学ぶ”「ふるさと・キャリア教育プロジェクト」

2021. 12. 14

担当：学びの場クリエイター 西村



12月12日（日）

佐賀小学校 6年生「楮のむしはぎ」

黒潮町・佐賀北部にある「若山楮和紙工房」でのむしはぎの日。（例年のイベントはコロナ禍で自粛）先生は、紙漉き職人の中嶋久実子さん。

・6年生が11月に行った卒業証書の紙すき。あの白い繊維が、どのようにしてできているか、それを体験する作業です。切りそろえた楮を、専用の大きなたるとで2時間以上「むし」て、皮を「はぐ」ので「むしはぎ」。最後に、ちょうどむし上がる様子も見学できてよかったです。

・まずは中嶋さんから、はぎ方を学びました。1本、す〜っとはぐと、みんなから「おー！気持ちよさそう」との声が。これほどきれいに、皮と中身（おがら）に分けられるとは！その後の作業で、この気持ちよさをぞんぶんに体感できたでしょう。何度も同じ作業をくり返して、たくさんの材料をあつかうので、最初にきちんとやり方を知ることは、とても大切です。

・1つ1つの作業を地道に積み重ねないと、楮は紙の原料になりません。この次の作業「へぐり」（はいだ皮から、黒い部分を取り除いて白い部分だけにする作業）のためにも、一本一本確実に、きちんとはぐことが必要です。そしてどこも機械化することはできず、人の手作業が全て。佐賀小学校の6年生のみんなが参加してくれて、『若山楮』の人たちも、とても喜んでいました。みんなの手の数だけ、一生懸命に取り組んだぶんだけ、貴重な作業量になりました。



←「きれいにはげてうれしかったです。機会があればまたやりたいです。」毎年この作業が行われています。興味がある人は、ぜひまた関わってみたいですね！



まずは、やり方を知る・学ぶ（新鮮な発見！）



知ったことを、実践。高知大生とも交流できました



ぎゅっとねじって、上の方を少しはぐと



後は、すーっと。気持ちいい！



大石さんにも教えていただきました



1本1本、みんなの手で



はいだ櫓の皮を束ねて、干す



ちょうど、むしあがった瞬間